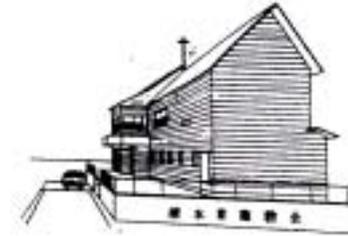


週報

2007年 11月 11日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》8章57節の御言葉から見てみましょう。“そこでユダヤ人たちはイエスに言った、「あなたはまだ五十にもならないのに、アブラハムを見たのか」とあります。なんともとんちんかんな会話が、今日の聖書を通して交わされています。まず、当たり前と言えれば当たり前なのですが、何故このような話になるのでしょうか。アブラハムといえ、創世記に出てくる父祖の名前です。神ご自身が、彼をご自身の救いの民の基として選ばれた、あのアブラハムです。創世記17:5に“あなたの名はアブラハムと呼ばれるであろう。わたしはあなたを多くの国民の父とするからである。”とあります。このような話の混乱は、神様の受けとめ方がぜんぜん違うところから来ています。イエス様にとって神は“父なる神”でした。きわめて具体的に、私たちが、自分の父を感じるように、神様のことをご存知だったのです。しかし、神様に選ばれた民の誇りにのみ支えられているユダヤ人達は、かなた手の届かないところにあるの栄光に、神を感じているのみで、とても、知っているなどとは言えない状況でした。今日の前にいらっしゃるイエス様が神であることに気付くことができなかったのです。55節に詳しい解説があります。“あなたがたはその神を知っていないが、わたしは知っている。もしわたしが神を知らないと言うならば、あなたがたと同じような偽り者であろう。しかし、わたしはそのかたを知り、その御言を守っている。”とあるのがそれです。救い主なる神を知らない人々が、神様のことを大声でいうのは、嘘だとイエス様は仰いました。その反対に、“私が、神様は、知らない”と言ったら嘘つきになるというのです。教会も、もし、“一応礼拝の時だけ、神様がいることにしよう”などと考えたら、ここで指摘されている、ユダヤ人と同じことになります。本当に近くにおいでになることを知りましょう。つぎに、54節に戻りましょう。“イエスは答えられた、「わたしがもし自分に栄光を帰するなら、わたしの栄光は、むなしいものである。わたしに栄光を与えるかたは、わたしの父であって、あなたがたが自分の神だと言っているのは、そのかたのことである。」、どういうことでしょうか。わたしたちも、もし自分に権威や力のあることを誇りにしたら、ここで描かれているユダヤ人と同じように、神様から本当に遠くなってしまいう事に気付きましょう。預言者達は、時間を越えて、見ていない救い主を、確実な方として、仮に今は隠されていても、信じて疑わなかったのです(イザヤ45:15)。